

研究の実施に関する情報公開

令和3年4月9日作成

令和6年7月3日改訂

鹿児島医療センターでは、倫理委員会の承認を得て、下記の研究を実施いたします。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

皮膚疾患画像ナショナルデータベースの拡充とAI活用診療支援システムの開発
<p>1. 研究の対象</p> <p>2014年10月1日から2022年12月31日の期間で診断や治療を受けた中で皮膚病変のデジタル写真を撮影された方</p>
<p>2. 研究目的・方法・期間</p> <p>レントゲン写真やCT画像を人工知能（AI）により自動診断するシステムの開発が進んでおり、近い将来AIによる自動読影が可能となると考えられています。一方、皮膚科領域はテレダーマトロジーとも呼ばれる遠隔診断システムが民間業者によりすでに実用化していますが、これはAIではなく皮膚科医が写真や臨床情報を基に遠隔診断しているため、多くの症例を短時間に処理することはできません。AIの開発には多量の皮膚病の写真が必要であることから、今回日本皮膚科学会が主導し、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による研究費を財源とした皮膚病を集めた国家的なデータベースを作成する研究を開始しました。データベースは臨床写真、ダーモスコープ写真、病理組織写真、そしてそれらの症例に紐付けされた臨床情報が集積されます。研究の中核となるナショナルデータベース構築のため、当科で保管している皮膚疾患の写真をそのデータベースに提供することにしました。データベースには写真とその診断名、年齢、性別、診断根拠となった臨床情報、治療内容、そして転帰などの情報が紐付けされたデジタルデータとして保管されます。なお、提供前に個人を判別できる可能性のある写真（個人が特定可能な顔面全体の写真、特徴的な刺青や詳細な指紋など）を除外しますので、個人が特定できるような写真及び臨床情報は一切提供しません。</p> <p>研究期間は倫理委員会承認日から2033年12月31日までを予定しています。</p>
<p>3. 研究に用いる試料・情報の種類</p> <p>診療情報：診療記録、検査データ</p>
<p>4. 外部への試料・情報の提供（複数施設研究の場合記入）</p> <p>研究にご協力頂いた個人が特定されるような情報は厳重に保護され、外部に出されることはありません。患者さんの識別コードと個人情報とを連結する対応表は、当センターの管理課長が保管・管理します。得られた研究の成果は、提供者本人やその家族の氏名などが明らかにならないようにした上で、他施設へ提供されたり、学会や学術雑誌及びデータベース上で発表されることがあります。</p>

5. 研究組織（複数施設研究の場合記入）

研究代表者：

愛媛大学皮膚科・藤澤 康弘

研究分担者：

大阪大学	藤本 学
東北大学	志藤 光介
国立情報学研究所	佐藤 真一
理化学研究所	山本陽一朗
東京農工大学	清水 昭伸
慶応義塾大学	大内健嗣
東京女子医科大学附属足立医療センター	梅垣知子
日本医科大学武蔵小杉病院	荻田あづさ
琉球大学	高橋 健造
京都大学	椛島 健治
浜松医科大学	本田 哲也
山梨大学	岡本崇
高知大学	中井 浩三
金沢大学	松下 貴史
産業医科大学	澤田 雄宇
群馬大学	安田 正人
滋賀医科大学	藤本徳毅
熊本大学	福島 聡
藤田医科大学	杉浦 一充
金沢赤十字	小村 一浩
横浜市立みなの赤十字病院	渡邊 憲
南和歌山医療センター	南 宏典
東京大学	吉崎歩
新潟大学	長谷川瑛人
信州大学	皆川茜
九州大学	伊東 孝通
大阪公立大学	鶴田大輔
虎の門病院	林 伸和
奈良県立医科大学	新熊 悟
平塚市民病院	栗原 佑一
JCHO 大阪病院	竹原 友貴
福井大学	笠松 宏至
静岡済生会総合病院	松本 賢太郎
筑波大学	乃村 俊史

6. 利益相反

ありません

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

鹿児島市城山町8番1号 鹿児島医療センター

TEL 099-223-1151 FAX 099-226-9246

研究責任者：皮膚腫瘍科・皮膚科 松下茂人